

ダクト発生 オープン情報

2009年 5月25日 ~ 27日 JG0TEV 中村

25日から27日にかけて日本海と関東付近でダクト発生によるオープンが確認されました。

5月25日のダクト発生域 (推定)



JG0TEVダクト発生状況確認結果

18時過ぎから19時過ぎまで長岡市移動運用ポイントでバンド内をワッチ。とても静かでしたが、カーナビで山陰の地デジのTVの受信とモバイルホイップで3エリア兵庫県美方郡9.36レピーターRS59の跳ね返りを確認しました。いずれも受信状態は不安定でしたが、能登半島以西では安定した強力オープン? を思わせる状態でした!



5月26日のダクト発生域 (推定)



7L3HZS一戸さんからのオープン情報

日本海ダクトに遭遇

7L3HZS 2009/05/28 (Thu) 11:06:53

先日能登の輪島で移動運用を行っているとき突然遠隔地からコールが・・・と言う事でレポート致します。

石川県輪島市宝立山145mH
IC-910D (50W 10W運用)
ANT YAGI 33x2x2

2009/5/26 10:00 7L3HZS/9 - JA4CUC 島根県簸川郡簸川町
RS 59-59 共に10W運用
JARL QSLビューローの話で盛り上がりました。

2009/5/26 10:53 JF1CSR/4(JA4IJF) 島根県安来市
RS 59-59 10W 車庫上のモバイルホイップ

JG0TEVダクト発生状況確認結果

カーナビの地デジTV受信状態から、鳥取県のBSSテレビ、北海道函館エリアのHTBテレビ画像の受信を確認しました。レピーターでは3エリアの兵庫県美方郡439.36レピーターがモバイルホイップでRS57。秋田県由利郡439.487レピーターがRS53での受信を確認しました。



5月27日のダクト発生域 (推定)



JK2PLQ芹澤さんからのオープン情報

太平洋ダクト発生中

JK2PLQ芹澤 2009/05/27 (Wed) 20:04:45

27日19:45 伊豆半島熱海からQSBを伴いJ07QPN福島県郡山市GP10Wにて交信可能なコンディションです。

太平洋ダクト終了

JK2PLQ芹澤 2009/05/27 (Wed) 23:16:30

19:45の交信後20:30頃再交信今ひとつ上がりきらないコンディションでOUTしました。

気象解析

5月25日から27日にかけて、行った解析結果と気象資料は以下の通りです。

【5月25日の実況・解析結果・考察】

日本付近は日本海に中心を持つ高気圧に覆われるようになってきました。上空500hpa面でもトラフと上空の寒気を中心は本州の東海上に抜けて、高度は上昇傾向です。日本海はリッジとなっていて5,700mの等高度線は関東から秋田沖を通過して沿海州南部に達しています。また、負渦度領域が日本海を中心に広がっています。

700hpa面では日本海から本州付近に下降流域が広がっています。

850hpa面では朝鮮半島付近に高気圧の中心があって、1,500mの等高度線が山陰沖から日本海中部に達しています。東日本から西日本の広い範囲で湿数10以上の乾燥空気に覆われています。日本海西部には15の暖気を中心が解析されています。

エマグラムから北日本や東日本の上空に逆転層は確認できませんが、米子、福岡など西日本では逆転層が確認できます。

以上から西日本の日本海側を中心にダクト発生条件がそろいやすかったものと判断します。

【5月26日の実況・解析結果・考察】

日本付近は高気圧に覆われました。日中以降上空の薄雲が広がりましたが、東日本を中心に500hpa面のリッジとリッジに伴う負渦度領域に覆われました。

850hpa面解析図を見ると、関東付近に高気圧の中心が解析されていて、1,500m等高度線で囲まれた領域は東日本から西日本、日本海を覆っています。また、北海道から中国地方の広い範囲で湿数10以上の乾燥空気に覆われています。

夕方18時過ぎに新潟県長岡市の移動運用ポイントに出かけたところ、日本海上が白い霧に包まれていて、海面付近は湿潤空気で満たされていることを確認しました。以上から日本海ではダクト発生状態がそろいやすかったと判断します。

【5月27日の実況・解析結果・考察】

四国の南海上に発達中の低気圧があって停滞しています。この影響で西日本の太平洋側を中心に南からあたたかいしめった空気が流れ込みやすくなっていて、湿潤域、上昇流域に覆われています。

上空には寒気を伴っていて、午後になってから広い範囲で大気の状態が不安定となったため、各地で雷雨が観測されました。

北日本から東日本にかけては高気圧の勢力圏内で、850hpa面の1,500m等高度線で囲まれた領域に覆われています。700hpa面の下降流域は不明瞭ですが、850hpa面では湿数10以上の乾燥空気に覆われていることがわかります。

日本海の中中部や北部に海上に発生している霧が確認できます。

以上から、ダクト発生条件は当初の予想に対してそろいにくくなったものと推定します。

総括するとダクト発生条件がそろわなかった19日からダクト発生条件がそろいやすくなった20日にかけては

25日に黄海と日本海にあった高気圧は、27日にかけて勢力を強めながら本州付近を通過したこと。

上空850hpa面の1,500m等高度線で囲まれた領域は25日から27日にかけて広がり続けたこと。

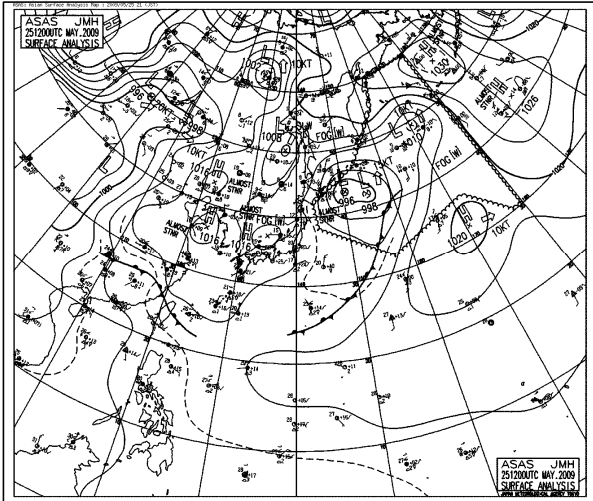
上空850hpa面の12の等温線は日本付近を広く覆っていたこと。

上空850hpa面の湿数が10以上と高かったこと。

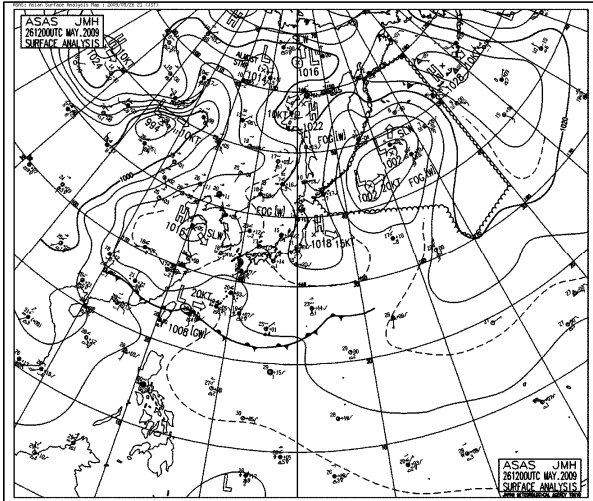
などによって、ダクト発生条件がそろいやすかったものと推定します。

ただし、今回は700hpa面の下降流域は不明瞭だったこと、西日本の上空に低気圧が停滞したことなどによって正渦度領域に覆われやすかったことなどによって、安定した大オープンには至らなかったものと考えます。

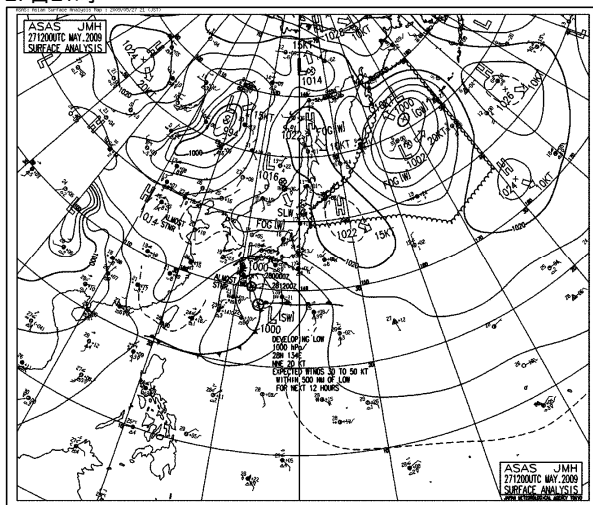
地上天気図
25日21時



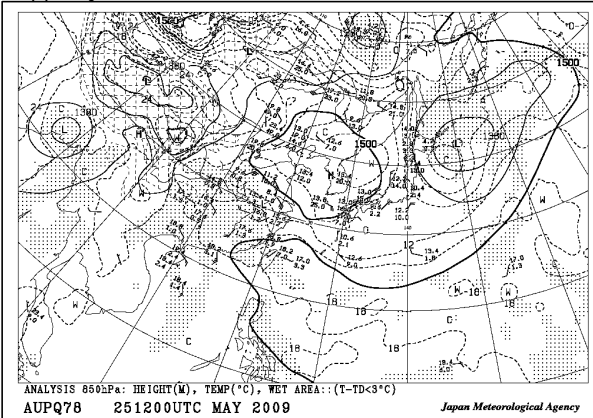
26日21時



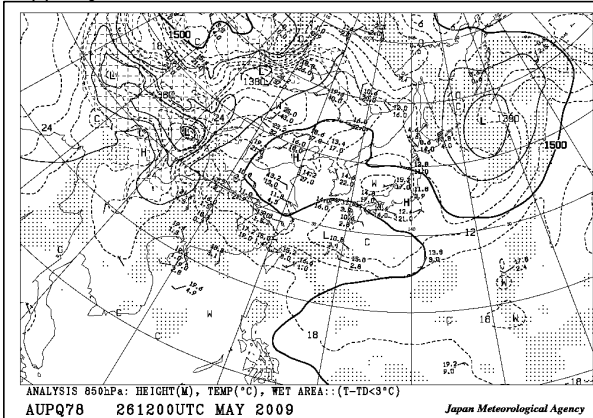
地上天気図
27日21時



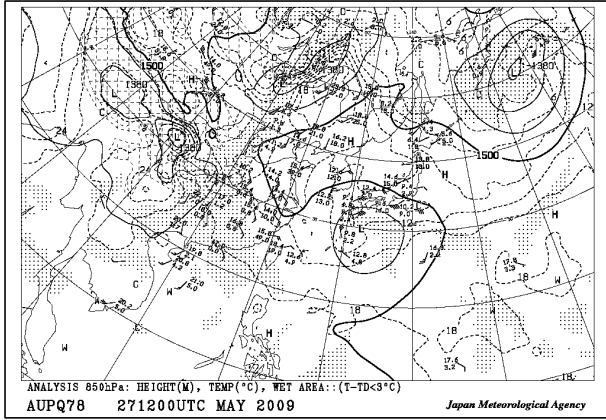
850hpa面高度・気温・湿数
25日21時



26日21時

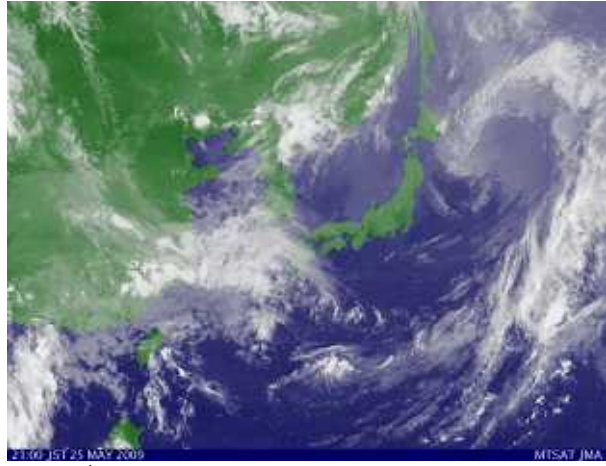


27日21時

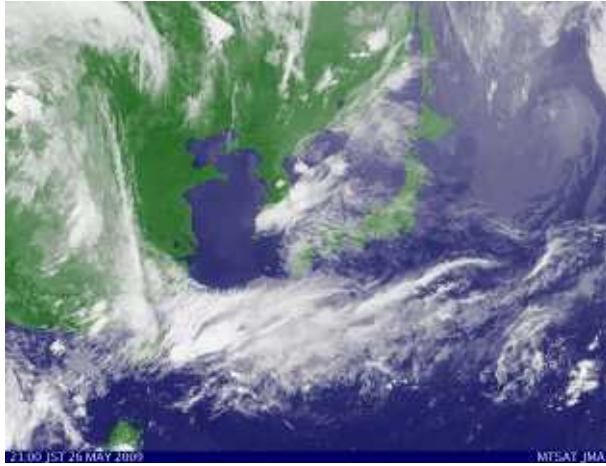


赤外線雲画像

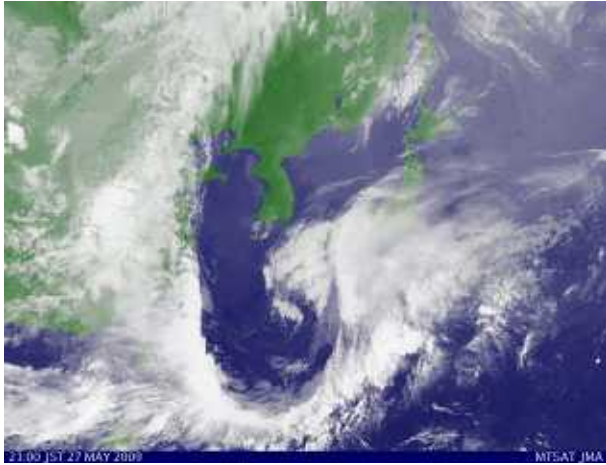
25日21時



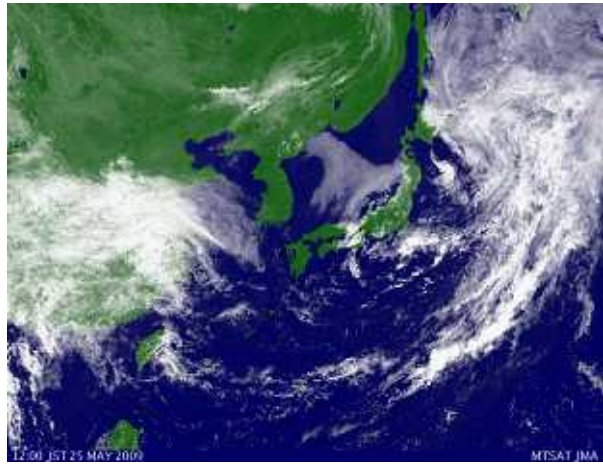
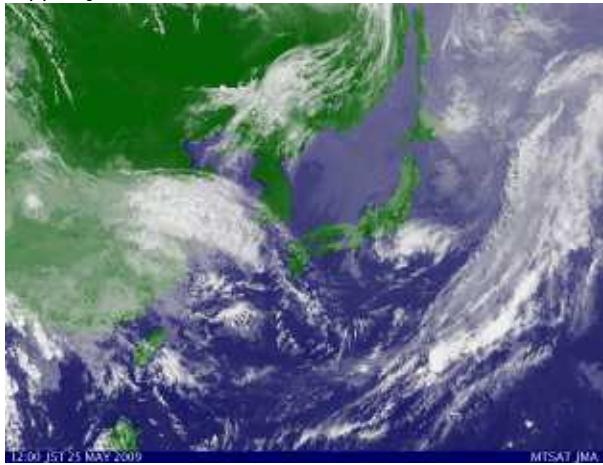
26日21時



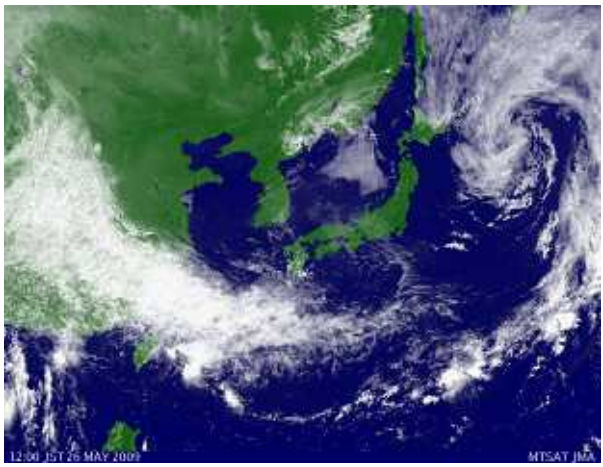
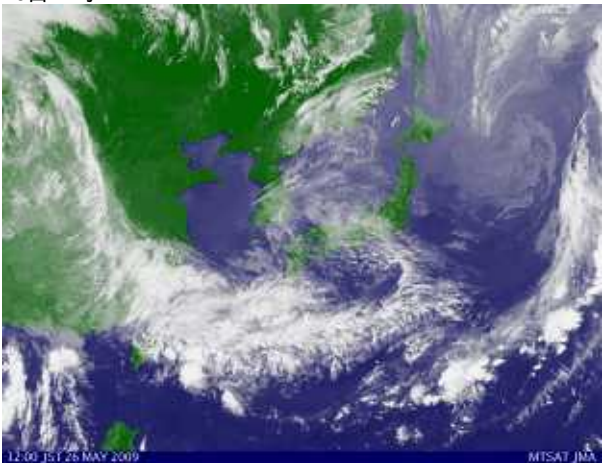
27日21時



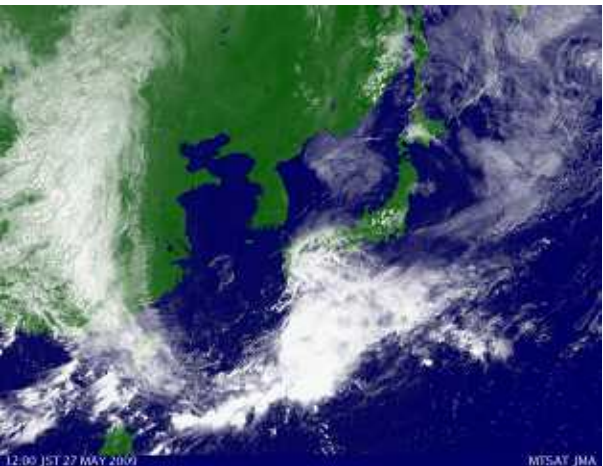
赤外線(左)と可視(右)雲画像の比較
25日12時



26日12時

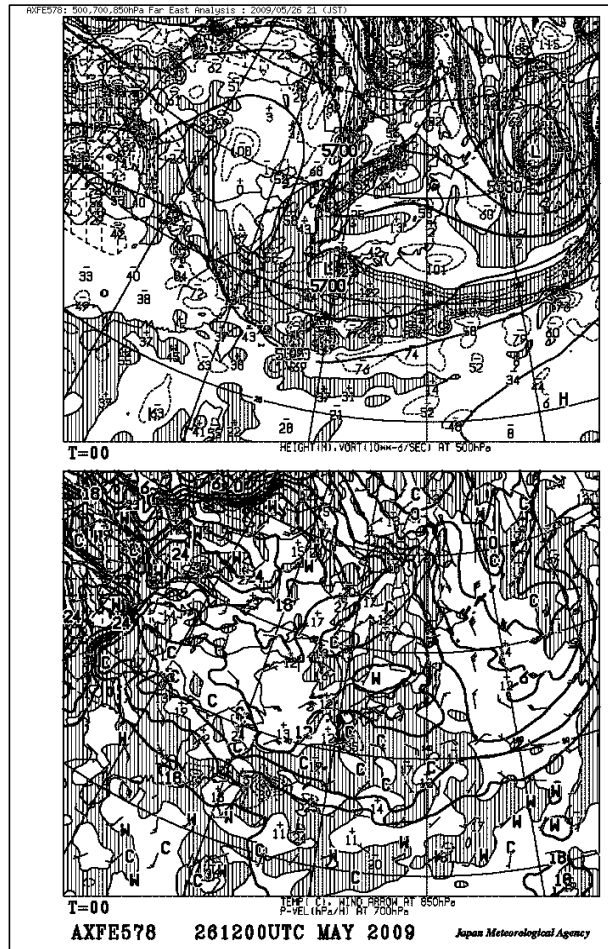
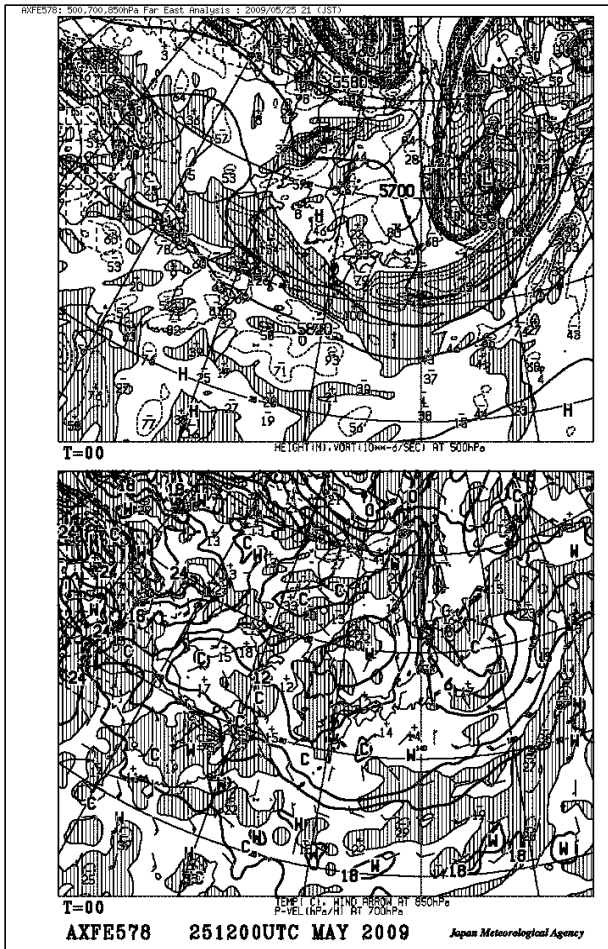


27日12時



500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
25日21時

26日21時



27日21時

